

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部夏季号 < 第80号 > (平成21年7月15日発行)

巻頭言

支部長就任のご挨拶



九州支部長 甲斐 忠義
(建設・福岡)

去る5月16日開催の第44回定時総会において九州支部長に選任されました甲斐忠義でございます。支部長就任のご挨拶を申し上げます。

私は、緊急に取り組むべきものとして次の3点についてまず重点的取組みをします。

第1は、業務開発委員会の運営立て直しと、九州経済産業局等政府出先機関との連携の強化が必要です。あらゆる産業支援のお手伝いをさせていただくためにいくつもの窓口を開きます。専門技術を売り込むためには、専門技術家のデータベースが必要です。各委員会で活動する会員全員について整備します。専門技術の宝物が持ち腐れとならないようにしなければなりません。**第2は、会員の社会貢献として地方自治体への支援です。**例えば地域の防災力の向上に寄与するための防災・減災の技術指導や地方自治体の工事監査、設計審査等に参加できる体制を作ります。地方自治体等との打ち合わせは、九州支部で対応していきますが、地区においては実施体制を検討していただきます。また従事する会員へは支部主催で実務研修を実施し、履修を義務づけることを考えています。**第3は、支部委員会や地区運営に当たる役員の確保です。**役員が二人しかいない地区が出てきました。この地区には支部として緊急に指導を開始します。このほか通常業務では、技術士試験管理事務では手落ちの無いように行っていき、CPDにおいては会員の希望を反映して受講者を確保する事、広報活動においては会員に愛される刊行物として内容を良くしていく事等があります。役員として活動していただく方々には、特定の役員に過分の負担とならないように、また一役員が独走しないよう気配りし、紳士的な付き合いをもって支部を運営します。検討結果は実施状況を評価し、手際よく改善を検討していきます。このたびの支部3役体制として従来の総務担当、事業担当、業務開発担当、地区担当の副支部長に加え政府出先機関等との窓口を広くするために連絡調整担当の副支部長を設けました。支部に設置の部会を福岡地区に再編しました。青年技術士で構成する第7部会は、本部や他の支部に倣い青年技術士交流委員会として九州全域の活動を行うため支部常設委員会に再編しました。唯一の部会として農業、森林、水産、生物工学の分野において九州全域で活動するみどり研究部会を残しました。このたびの総会におきまして出席会員の皆様から貴重なご意見をいただきました事につきましては参考として参ります。特に支部長選挙の在り方について委任状提出者の意向が反映されていないという指摘がありました。この点については改善を検討していきます。私は、課題を着実に迅速に解決していくことを心がけます。今日は、生涯現役時代であります。会員の皆様が末永く活躍できる組織活動作りに取り組みますのでご協力ご指導をよろしくお願い申し上げます。

サステナビリティを学ぼう



長崎県技術士会・会長 犬東 洋志
(建設・長崎、博士(工学))

Prologue

長い期間技術士として活動をしてきて、真に Professional Engineers だったかと自問自答する機会が多い矢先に今回の原稿依頼を受けてはたと困った。そこで私の通年のThemeでもある表題の実現を会員に問いかけ役目を果たしたい。

1. 現在の課題

現在日本国民として対応しなければならないことは多いが、最も大切で急がなければならないことは「温暖化防止」だと確信したい。笛は高らかになるが一向に踊らず、つまり口ではうまいことを言って実行が伴わない。これが今の我が国民の現状と考えると寂しくなる。

2. 予測と現実

朝起きてスイッチをあげても電気がつかない、蛇口をひねっても水は出てこない。そんなことを考えたことがありますか「気が変になったのか」そうです。一例として、自販機の電気使用量は過大表現すれば黒部ダム約4個分が必要なのです。黒部ダムを計画し建設した経営者や技術者は「このダムを造らなければわが国の産業発展はおぼつかない。」と雪の中での越冬も辞さず、身内の死にも立ち会えない苦しみの中で実現させたのです。それを思うとき技術者としてフル営業が必要と賛意を表し得るのでしょうか。

最も恐れることは、予期せぬ災害が起こることと思います。今回の新型インフルエンザは関係ないのかと心配です。これらの現実に対応するか技術者の正念場です。

3. 目的と実行

今年4月内閣官房は地球温暖化対策の中期目標について意見の募集をしています。京都議定書では日本の目標は1990比でマイナス6%です。私は計算がし易いように10%と考えて対応しています。先ず、化石燃料の代表格ガソリン消費量の削減です。車の走行距離を削減することです。景気刺激と称して高速料金の低減は本当に正しい判断でしょうか疑問です。

「今からでは遅すぎはしないか」いや「もう始めないと間に合わない」と考えられ今回の表題を立ち上げられたのが、元東京大学総長・小宮山さんです。

その中で、「議論と行動は同時に出来ます」今は行動を起こすときですと言われていています。私も同じ意見です。行動を起こす第一歩は個人です。そして企業です。さらに世界に模範を示すモデルを造る仕事を担うのは大学であり行政です。

Epilogue

環境と産業は両立しないとの考えは理解しますの、国民的な議論が必要です。他人事としてしているとわが身に降りかかります。その観点から我々技術士も研究や議論と行動を開始しなくてはならないと思えます。

特に、昨今の媒体から得る情報には断片的なものが多く注意して使用しなくてはなりません。「納豆を食べてやせる」が代表格ではないのでしょうか。

私ども技術士会にはいろんな分野や所属する勤務実態があることは好都合です。その中からリーダーを見出しスタートする時だと考えます。

理事会報告

(平成21年度第1回H21.5.7)

前日本技術士会理事 **是永 逸生**
(機械・総合技術監理・北九州)



平成20年度理事として最後の理事会であり、主要審議事項として

- (1) 平成20年度事業報告及び収支決算について
- (2) 公益社団法人認定申請関連事項
- (3) 委員会組織の変更関連事項

に加えて、13項目の議題、17項目の添付資料に基づいて、審議された。

その後、報告事項として常設委員会報告やCPD監査実施報告等、7議題が報告された。

以下、主要な項目に対して概要を記述する、詳細内容が必要な場合は理事会資料を参照していただきたい。

(1) 事業報告及び収支決算

技術士に対する評価・活用の有用性を進めるために国会で技術士等の人材活用の積極的推進を決議、技術士受験者増及び経費節減により収支決算も改善の方向に進んだ。

(2) 公益社団法人認定への申請

現段階で公益社団法人認定を目指すべきかを種々論議したが技術士会に対して世間も合意している事であり、理事会として現時点で公益法人を

目指すことに決定。

(3) 委員会組織変更

公益法人化・行動する日本技術士会を目指して委員会組織を内部向け委員会と外部向け委員会に変更し、各委員会を統廃合する。

新たに総務委員会、企画委員会、研修委員会、社会貢献委員会を新設する。

(4) 支部細則変更

新社団法人制度で、支部に係る定款細則の変更が必要となる。具体的には、支部長選任方法、支部総会の位置づけ、役職の類似名称、賛助会員、支部内委員会・部会など

(5) 表彰関係

名誉会員：九州支部該当者なし

会長表彰（第1号・入会35年）：

甲斐章人（九州／経営）

（第2号・入会10年）：

小出 剛、池田義實、

山口一弘、佐藤淳一

(6) 技術士全国大会（創立60周年記念・平成23年）東京開催

公益社団法人

認定申請の対応について

前政策委員 **山口 一弘**
(建設・福岡)



平成18年の通常国会で公益法人改革に関わる関連3法案が成立したのを受けて、平成18年5月11日開催の理事会において、「新たな公益法人制度の下での“公益認定”を目指す」との決定がされて以来、平成19年より政策委員会では、当初21年3月に認定申請を行うことを目標に、定款変更の検討が進められてきました。しかし、平成21年3月になって、公益法人と一般社団法人との運営実務上の違い等を慎重に検討を加える必要があること、目指すことは決めたが申請をすると言う機関決定がなされていない、等の意見もあり、5月時点では、平成21年度の総会において、公益社団法人への移行認定申請及び定款変更の案の承認を得次第、申請に必要な事務を進めることになりました。

ところで、何時認定が受けられるかについては、公益認定等委員会事務局等行政側の業務処理、調整の進み方によるところが大きく、申請数が2万件ほど在るとも言われており、かなりの期間を要すると思われる

す。理想的に行ったとしても、平成22年3月初め認定、4月1日登記といったところが想定され、どんなに早くても新定款の成立は来年になるものと思われます。

したがって、新定款成立までは現行定款のままということになり、今年1年は従来通りおこなわれます。ただし、新しい理事会からは、昭和53年10月の理事会で決定された常設委員会を時節に合わせて再編・変更することになっており、31年ぶりに新しい常設委員会の下に運営されることとなります。その名称は、倫理、総務、企画、CPD・人材育成、広報、社会貢献、活用促進、国際、広報戦略特別委員会、です。

以上九州支部推薦政策委員として、2年間にわたり、新定款作りに携わることが出来たことを光栄に思っています。これまでの九州支部会員の皆様の、ご支援ご協力に感謝し、今後の公益法人認定までの今後の予定を報告し私の任務を終わらせていただきます。誠に有難うございました。

平成20年度の支部長会議について



前支部長 光岡 毅
(建設・福岡)

1. 支部長会議、

この会議は、年4回開催されるが、そのうち1回は支部所在地において開催することが慣例化しており、平成20年度の支部長会議は、第一回7月17日本部会議室、第二回10月6日福岡市西鉄イン博多、第三回12月15日本部会議室及び第四回平成21年3月5日に本部会議室で行われた。

2. 平成20年度において議論した内容

会議時間の半分は、本部からの報告で理事会、政策委員会その他各委員会で討議した事項のうち重要な討議点について説明があった。

この1年間の会議の大きな問題は公益法人改革に伴う技術士会の定款の改定および改定手続きのスケジュールについての理事会での審議状況。最初は21年度当初に公益法人への変更申請を目指すよう進めてきたが、現在では若干トーンダウンしている状況。会議の後半は、支部提案事項を議論した。

大きなテーマは“全国大会について”でした。全国大会は、技術士にとって、技術士会にとってまた支部にとってどのような意味づけがあるのだろうかを議論した。この開催が地域の大きなイベントになるという期待。また、技術士個人として技術士相互

の親睦、旅行先の観光などの楽しみもあるのではないのか。など議論がでた。しかし、昨今の経済状況で開催資金をおいそれと出してくれる企業等がなくなってきた。会議開催資金の調達。会議にお金をかけるべきなのどうか、会議をどのように運営したらよいか。など議論は尽きない。結論は、華美に走らないようコスト縮減を考慮し開催支部に任せることにした。本年度は秋に東北支部で第36回技術士全国大会が10月中旬に開催されます。皆様のご出席をご期待します。

もう一つの事項は、中四国支部から四国が独立分離する案件。

3. 支部長会議の意義

支部会計も本部一体となって処理されいわゆる連結決算となった。今後本部との連携を蜜に支部経営を進めることになるので会議の位置づけはますます重要になってくる。

最後に、甲斐忠義新支部長が率いる新しい九州支部の執行体制が整いました、期待しましょう。

また、4年間の支部長任期の間、多大なご支援を頂き大過なく無事退任いたしました。有難うございました。この場をお借りして皆様にお礼を申し上げます。

理事就任のご挨拶



(社)日本技術士会・理事 松原 好直
(上下水道・北九州)

九州支部から理事に立候補し、皆様のご支援・ご支持を得まして当選しました松原好直でございます。今後2年間理事としての、活動方針と心構えを述べさせていただきます。

【活動方針】

技術士プロフェッション宣言にみられる技術士として、“技術士”が社会から認められ、社会に貢献し、社会から高く評価されるように、社会的地位の一層の向上を図る。②会員の総意を携え、本部とのパイプ役に徹し、部会・支部の活性化に努力し、さらに、支部会員と各県技術士会非会員及びNPO所属非会員の活動を一本化し、会員拡大に向けての体制づくりに努める。③技術研鑽(CPD)のさらなる活性化につとめ、CPD開催機会の応援および部門間の垣根を越えた異業種、学会、協会等の交流の拡大を図る。④JABEE修了生や第一次試験合格後の修習技術者支援の拡大と、小中学生の理科支援を行う。⑤関係の学協会、官公庁、企業、団体等との連携をさらに深め、もの言う技術士会および九州支部を目指す。⑥国際化、特に環境お

よび省エネ関係の交流・結びつき等の橋渡しに努める。

⑦(社)日本技術士会の中長期を見据えた経営、即ち、小さな組織・活動する組織、財政の健全化を図る。等には々々々の信念を持って実行したく存じます。

【心構え】

九州支部内の融和を大切に、各先生の奉仕・ボランティア精神により組織が成り立つことを基本に、失礼ながら芯から汗をかかれる老壮青の先生方が適材適所に配置されましたので、さらなる活動する組織となり、支部～地区の健全な運営が行われます。これらのことを大事にすることによって、各界との信頼関係が生まれ、さらに強固になり、明日への期待がより深まりました。

以上、理事就任の一端を述べましたが、現在まで各位の多大なご指導ご協力に感謝を申し上げ、今後とも健康と安全を基本に真摯闊達に努め、技術士の一層の地位向上、発展のために粉骨砕身の奉仕をさせていただき所存でございますので、今後ともに皆様のご支援をお願い申し上げます。

KK 委員会報告



前KK委員 長野 紘一
(建設・福岡)

一昨年の7月に光岡支部長より本部のKK委員を引き継ぎ、並行して支部のKK委員会(9名)を発足させ、支部独自の会員拡大・活性化の議論も行ってきましたが、今年度より、「KK委員会を廃止し、総務委員会に活動を編入し常任幹事会で審議を行う」事になりました。

改めて、過去2ヶ年間の支部KK委員会活動(7回開催)を簡単に報告します。

委員会では、センター廃止に伴う会員動向の把握及びその対応、支部活性化のための公務員会員の特別要請、会員名簿の整理や外部からのアドバイザーの必要性等を検討しました。そのほか、協賛会員との意見交換会参加や支部長会議(福岡で開催)に支部KK委員会の意見具申も行いました。

会員拡大には当然のことながら、「会費20,000円」が隘路になっており、メリットうんぬんより「会員各人の地道な活動」に尽きるとの結論になりました。

例えば、技術士登録申請時に入会用紙を配布し積

極的に「会」の紹介を行ったり、合格祝賀会等を利用して個人的に勧誘を進めていくなど、役員を中心に一人一人が目標を掲げて努力する必要があると思います。また、支部としても他団体との共同行事を企画し、その延長線上で加入の努力をするなど工夫も必要ではないかと考えます。

また、本部に対しては100年に1度の不況を考え、退会防止を更に徹底させるため自動振り込みの活用などお願いしております。また、実現までには色々な問題があると思いますが、技術士登録と同時に会員となる法的整備の検討も期待したいと思います。

最後に、本部KK委員会に参加して、(勿論私の反省も含めてですが)

・なぜ、会員を拡大する必要があるのか? また、会員拡大が図られたとき、会費や身分等も含めて技術士会がどのように変わるのか? という「錦の御旗」を掲げる必要があると痛感しました。

防災委員会報告 (3年間の活動を振り返って)



前防災委員長 三浦 哲彦
(建設、総合技術監理・佐賀)

平成18年5月から3年間にわたって委員長を務めてきました。退任にあたって活動を簡単にレビューさせていただきます。活動の柱として次の3つを考えました。

- (1) 防災委員会委員の自己研鑽(主に風水害対策について、各委員準備資料を勉強)
- (2) 支部会員の防災に関する研修(主に風水害に関する実務的セミナーの開催)
- (3) 地域防災活動への参画(各地域における防災力向上への寄与)

支部会員研修(2)については18年度の産官学セミナー「九州における災害社会環境を考える」を皮切りに、19、20年度は甲斐副委員長主導のもとで防災実務セミナーを開催しました。また19年4月、佐賀市で治水利水の先達成富兵庫に関するシンポジウムを共催しました。

地域防災活動への参画(3)は、個々の技術士が地域に溶け込んで日常的に行動する一つの手段だと位置づけました。この面での活動も日本技術士会が問われている課題に含まれています。しかし具体的行動に踏み出せない状況が続きました。地盤工学会九州支部や国交

省・事務所との連携を模索する中で、活動の場として水害に悩む佐賀をターゲットとしてNPO法人技術交流フォーラム防災部会の協力を得て次のことを実行してきました。

- ① 雨季前点検の活動(毎年5月、武雄河川事務所、消防団と3つの一級河川を巡視)
- ② 大規模浸水災害対策検討会への参加(19年度から国交省、佐賀県、佐賀市と協働)
- ③ 防災フォーラムへの参加(毎年、武雄河川事務所に協力)
- ④ 河川防災ステーション立ち上げへの協力(20年度国土交通省、佐賀市、自治会と協働)
- ⑤ 地域防災マップ作り(21年度、武雄河川事務所と協働して、2地区を対象に行動予定)

地域防災マップ作りは地域住民と膝を交えて交流できる活動の場になると期待されます。防災委員会は21年度から松嶋委員長を始めとしてメンバーが若返ります。支部としての新たな活動、各県での地域防災力向上への取り組みなどが進展することを願っています。

平成21年度第1回CPDの報告



前支部CPD委員長 伊藤 整一
(建設、総合技術監理・福岡)

21年度の支部第1回CPDは、4月25日(土)106名の参加の下、福岡商工会議所ビルにて開催された。冒頭に是永逸生理事(副支部長兼務)に依る支部長代理としての「開講の挨拶」があり、続いて産官学それぞれの先生により次の4つの講演が行われた。

1. 九州大学芸術工学研究院教授森田昌継先生「パブリックデザインの方法ー都市環境の秩序化と個性化のために」。2. ㈱ゼロテクノ代表取締役岡田秀敏先生「コンクリート構造物の品質確保・向上を目指して」。3. 福岡県三潴郡大木町環境課資源循環係長境公雄先生「大木町が目指す循環のまちづくり」。4. ㈱日本気象協会九州支社・気象予報士手嶋準一先生「福岡の温暖化ー今、何が起きているのか?ー」

最初の森田昌継先生は、まちづくりにおけるパブリックデザインを含むクリエイティブ活動は理想とする社会を求め、その実現可能性を熟考することによって秩序化と個性化のかたちを創造することが必要であり、パブリックデザインは公共・公的空間における諸要素(都市の要素:都市環境装置)に着目して都市環境装置相互の関係をデザインすることが重要であると述べられた。次に岡田秀敏先生は、大分大学と共同研究でこれまでのコンクリートが使用する材料に左右されることなく良品質を維持できるような工学的的手法について研究を行い、「単位水

量管理システム」や「コンクリート用混和剤=改質フライアッシュ:CfFA」を研究成果として社会へ提供することが出来るようになり、長寿命のコンクリート構造物が築造可能となったことを講演された。3番目の境公雄先生は大木町が目指す循環のまちづくりの目標や住民が主体性を持って行っているバイオマスタウンへの取り組みとその成果について極めて分かりやすい講演をされた。「子供たちにつけを残さないことを目標にまちづくりを行っています」という言葉が印象的でした。最後の講演で手嶋準一先生は、地球規模での温暖化で最も進んでいるのは日本の都市であり、福岡市も例外ではない。温暖化の原因には二酸化炭素、メタンなどの温室効果ガスの影響も大きいとされているが、都市の温暖化のスピードは地球温暖化より遥かに速い。都市では産業や排熱、高層化したビルによる放熱、緑地面積の減少、土壌水分の減少なども大きな原因である。森林や農地による温暖化抑制効果は無視できず、農林業を再評価すべきだと結ばれた。

次回支部CPDは7月25日(土)の予定です。多くの皆様の参加を希望いたします。なお私、伊藤整一は今回のCPDを最後に4年間努めましたCPD委員長を退任致します。長い期間の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

青年技術士交流委員会活動報告



青年技術士交流委員会会長 持田 拓児
(建設・福岡)

この度、前任の山田伸雄会長を引き継ぎ、青年技術士交流委員会(旧第七部会)の会長をさせていただくことになりました持田拓児です。宜しくお願い致します。

青年技術士交流委員会は、45歳未満を対象とした若い技術者の集まりであり、また、異分野の技術者が集まる会です。ここ2ヵ年は、技術士一次二次合格者祝賀会において、PRする場を設けていただいたおかげで、修習技術者や女性技術者の参加も多くなり、さまざまな意見が出やすく、活気あふれた楽しく、自由な雰囲気の定例会となっています。

この定例会は2ヶ月に1回開催し、12月には年に1回の公開講演会を実施しています。毎年、公開講演会後の望年会で自由な意見を出し合い、次年度のテーマを決めています。本年度は、「次世代エネルギー」をテーマとして、複数年で実施していく予定です。

昨年より、修習技術者の指導についても力を入れ、6月に「修習技術者のための直前対策講座」を実施し、

複数人の合格者を得ました。そこで、今年も6月に実施する予定です。

また、近年小学生の理科離れが社会問題となることから、我々若い技術者が子供たちにできることはないかと考えたイベントとして、「現役技術者が教える小学生のための夏休み自由研究教室」を昨年8月に実施しました。内容は、福岡県那珂川町の九州新幹線トンネル現場を子供たちに案内し、新幹線トンネル工事の最新技術やスケールの大きさを肌で体感してもらいました。今年は、本年度のテーマに沿って、「西部ガス見学を通した夏休み自由研究教室」を8月後半に予定しています。

私は、九州全体の若手技術者がもっと積極的に参加できる場を形成し、企画・立案・実行・改善を会全体で運営していくことができるよう努力いたします。そのためには、諸先輩方にご相談し、ご指導いただく機会が増えると思っておりますが、宜しくご鞭撻のほどお願い致します。

「九州支部・平成21年度 (第44回) 定時総会」の開催報告



九州支部 総務委員長 中村 勲
(建設、総合技術監理・福岡)

平成21年5月16日(土)に、日本技術士会九州支部の平成21年度(第44回)

定時総会が福岡商工会議所で開催された。

当日の会員出席状況は、支部会員総数(案内状送付)1081名のうち出席会員111名、委任状提出616名、合計727名。支部規則第17条に定める総会成立の必要定員数(過半数以上)を上回り、定時総会は成立した。また、江崎史啓氏(建設部門)、仲野幸男氏(建設部門)を議事録署名人に指名した。

甲斐副支部長の開会宣言に続き、光岡支部長の退任挨拶では2期4年間の支部活動として第32回全国大会の実施や、九州技術士センターの廃止及び技術士法制定50年を記念したパネルディスカッションを実施し「技術士よ、外に出よう」の活動テーマを取り纏めたこと、西日本技術士大会や地域産官学と技術士セミナーの実施などに会員とともに活動したことに感謝し、新しい体制での技術士会の発展を期待する旨の発言があった。

今回総会の討議議題は、平成20年度会務・事業報告等の承認と平成21年度会務・事業計画等の主旨(基本骨格)を審議するものであった。

議題審議に入り、第1号議案「平成20年度会務・事業報告」(会務報告・支部活動・地区事業報告・委員会事業報告・部会事業報告)、第2号議案「平成20年度決算報告・監査報告」(九州支部の財産目録、一般会計及び特別会計並びに監査報告書)についてスムーズに議事が進行した。第3号議案「平成21年度会務・事業計画(案)」、第4号議案「平成21年度事業予算(案)」及び第5号議案「九州支部細則の改正について(委員会及び部会の再編)」についても、会場から励ましの意見が多数出され原案通り可決された。

ここで休憩をはさみ、第6号議案として、支部規則

第9条に則り支部長選挙が実施された。次期支部長候補として2名が立候補された。選挙に先立ち、両名の候補者より立候補決意と選挙公約の説明がなされた。選挙の結果、甲斐 忠義氏(建設部門、福岡)が投票総数の大多数を獲得し、新九州支部長に当選された。今後の任期は2年間。当選を受けて甲斐新支部長の挨拶では、今後新体制の下、支部の運営に当たって会員の社会貢献活動の取り組みを強化していきたい。このためには支部が社会貢献のモデルを作成し道筋を示すこと、地区が実践活動して取り組むことによって会員の意識が大きく変わると思う。そのことによって支部会員数の拡大に繋がっていくと思われる、という内容の挨拶があった。

第7号議案「副支部長、常任幹事、会計監事の承認」及び第8号議案「委員長、部会長の委嘱」について、議長より新執行部に一任する案が提案され、満場一致で承認された。

第9号議案その他では川崎迪一氏が関門国道トンネル50周年記念「関門国道トンネル建設の歴史」の工事誌を発刊したことを報告された。

最後に会場参加者から委任状提出者の扱いについて改善すべきであるとの意見が出された。これに対して新執行部として検討する旨回答があった。全議案終了後、九州支部表彰規定により、次の6名が支部活動の功績に対して、支部長表彰された。

長野 紘一先生(福岡地区)、安西 敏雄先生(北九州地区)、三浦 哲彦先生(佐賀地区)、久原 俊之先生(長崎地区)、吉良 文至先生(大分地区)、稲田 博先生(鹿児島地区)

表彰後、役員選挙立候補者斎藤清美氏、松原好直氏の立候補挨拶の時間が設けられ両氏から選挙公約等の説明が行われた。

「関門国道トンネル建設の歴史」発刊のお知らせ

関門会 代表 川崎 迪一(建設・福岡)

関門国道トンネルは昨年3月に開通50周年を迎え、記念式典を下関で開催してから早1年経ちました。関門会では50周年記念行事として、昨年10月に現場見学会とセミナーを第二部会との共催で実施しました。それに引き続き

「関門国道トンネル建設の歴史」一戦中戦後の時代に翻弄された苦悩と感激—

と題した、記念誌(内容見本を添付)をこのたび発刊しました。

本誌は、学協会、図書館や学校など公益団体等に寄贈するとともに、一般の希望する方にも

1冊 2,500円(送料別 500円)合計3,000円で頒布することにしています。

支部に見本誌を置いていますので閲覧下さい。

関門会 事務局世話人 小西 徹

TEL 092-891-0450

E-mail:tk-pe.civil@hyu.bbiiq.jp

新 体 制

九州支部役員、地区役員名簿

任期：平成21年5月16日～平成23年度総会まで

支部役員		
	支部役員	氏名
幹事	顧問	完戸 鶴
幹事	支部長	甲斐 忠義
幹事	副支部長	深見 一男
幹事	副支部長	伊藤 整一
幹事	副支部長	小出 剛
幹事	副支部長	泉館 昭雄
幹事	副支部長	冷川 久敏
幹事	会計監事	鶴島 郁之輔
幹事	会計監事	川原 伸孝
幹事	総務委員長	中村 勲
幹事	事業・CPD委員長	長野 義次
幹事	試験管理委員長	原田 政太
幹事	業務開発委員長	泉館 昭雄(兼務)
幹事	防災委員長	松嶋 憲昭
幹事	広報委員長	棚町 修一
幹事	青年技術士交流委員会	持田 拓児
幹事	みどり研究部会	田中 孝一
幹事	総務副委員長	江崎 史啓
幹事	事業・CPD副委員長	久保川 孝俊
幹事	試験管理副委員長	仲野 幸男
幹事	防災副委員長	松岡 正章
幹事	JABEE担当	沼尻 健次
幹事	工事監査担当	石田 寛生
福岡 地区		
	地区役員	氏名
地区幹事	代表幹事	江口 知弘
地区幹事	総務担当	斉田 護
地区幹事	総務担当(副)	塚本 義孝
地区幹事	CPD担当	宮地 聡哉
地区幹事	CPD担当(副)	小西 撤
地区幹事	情報配信担当	原口 善光
地区幹事	情報配信担当(副)	寺地 守
地区幹事	第1部会担当	黒江 浩
地区幹事	第2部会担当	佐竹 芳郎
地区幹事	第2部会担当(副)	横尾 整司
地区幹事	第3部会担当	佐倉 克彦
地区幹事	第4部会担当	真鍋 和義
地区幹事	第4部会担当(副)	和田 義昭
地区幹事	第5部会担当	吉木 久人
地区幹事	第5部会担当(副)	吉村 岳丸
地区幹事	第6部会担当	松浦 茂雄
北九州 地区		
	地区役員	氏名
地区幹事	代表幹事	末松 正典
地区幹事	総務担当	坂田 一則
地区幹事	CPD担当	寺師 政廣
地区幹事	情報配信担当	西井 康浩
地区幹事	広報担当	竹内 良治
地区幹事		沼尻 健次
地区幹事		安西 敏雄
地区幹事		戸木田 康男
地区幹事		佐倉 克彦
地区幹事		吉田 剛

佐賀 地区		
	地区役員	氏名
地区幹事	代表幹事	宮副 一之
地区幹事	総務・広報担当	福島 裕允
地区幹事	CPD担当	古賀 浩史
地区幹事	情報配信担当	堤 茂徳
地区幹事		藤永 正弘
地区幹事		盛永 保弘
長崎 地区		
	地区役員	氏名
地区幹事	代表幹事	大橋 義美
地区幹事	総務担当	山口 和登
地区幹事	CPD担当	大橋 義美
地区幹事	広報・情報配信担当	桐原 敏
熊本 地区		
	地区役員	氏名
地区幹事	代表幹事	兼子 健男
地区幹事	総務担当	田尻 雅則
地区幹事	CPD担当	青山 次則
地区幹事	広報・情報配信担当	吉田 紘彬
地区幹事		加来 雄一
地区幹事		中野 正一
地区幹事		山本 祐二
地区幹事		金光 勝明
地区幹事		中村 秀樹
大分 地区		
	地区役員	氏名
地区幹事	総務担当	冷川 久敏
地区幹事	CPD担当	宮崎 辰彦
地区幹事	広報・情報配信担当	松尾 洋志
地区幹事	副会長	渡辺 浩志
地区幹事	副会長	古賀 輝夫
地区幹事		安藤 日出男
地区幹事		藤沢 孝
地区幹事		松崎 和夫
地区幹事		瀬口 宏由紀
地区幹事		江藤 郁
地区幹事		大島 祐二
地区幹事		室之園 康行
宮崎 地区		
	地区役員	氏名
地区幹事	代表幹事	下津 義博
地区幹事	総務担当	菅 忍
地区幹事	CPD担当	菅 忍
地区幹事	情報配信担当	菅 忍
地区幹事	広報担当	藤原 秀志
鹿児島 地区		
	地区役員	氏名
地区幹事	代表幹事	後藤 祐一郎
地区幹事	総務担当	後藤 祐一郎
地区幹事	広報・CPD担当	井内 祥人
地区幹事	情報配信担当	後藤 祐一郎
地区幹事		村岡 公範
地区幹事		門松 経久
地区幹事		山ノ口 正和
地区幹事		浦島 和衛

最近の海外業務促進 実行委員会活動報告

九州委員 宮田 守次
(金属・北九州)



前回は平成20年後半の報告を行ったので、今回は平成21年前半の海外業務促進実行委員会の活動状況のポイントについて報告する。

1. 概要

本実行委員会は毎月1回技術士会本部隣の葦手ビル5階の会議室で行われている。本年は昨年に引き続き、中国の大学等との覚書交換及び中国での調査活動、天津市での生産性、省エネ、環境対策などの講習開催、四川大地震調査など精力的に技術士業務の開拓・拡大を図ってきた。

2. 主な活動内容

1) 四川大地震の技術協力

中国の重慶大学、西南交通大学、長安大学等との覚書交換及びこれ等大学の要請による四川大地震の調査計画及び技術士派遣、連携強化、実施について現地での協議を行ってきた。

2) 業務幹旋実行委員会との定例会議の立ち上げ。

従来は無かった海外業務促進実行委員会と業務促進実行委員会との合同会議が四半期に1回程度開催されるようになった。ここでは業務開発に関する共通事項・課題について討議し、技術士の業務開発促進をより効果的に行うことになった。すでに3回行われている。

3) 海外食品安全調査(内閣府)への基本的スタンスと参加

① 中国などからの有害物混入輸入食品問題で、海外食品安全調査が政府方針で打ち出され、日本技術士会も参画することになったものである。

② 調査目的の明確化・業務計画書作成・見積書作成……、業務最終検査など全体として15の項目にわたって6月までに作成する。

4) 中国政府の専家局、中国国際人材交流協会、大連市、大学、安徽省などの省都、中国科学技術協会等から多くの要人が次々と日本技術士会本部を訪問し、技術協力を要請してきている。

5) 平成21年度より、海外業務促進実行委員会は「国際活動支援実行委員会」と名称を変更し、海外業務開拓と幹旋や海外協力講習会開催等だけでなく、日本技術士会の各種国際活動支援と、より広範な課題を処理する実行委員会になる。実質的に対象国も多くなることが期待されている。

第三部会定例技術研修会の報告

第三部会 宮田 守次
(金属・北九州)

平成20年度の第三部会技術研修会も年間3回の計画うち2回は終了し、今回は3回目の研修会で平成21年2月28日13:00~17:00九州支部会議室で予定通り実施したので以下その概要について報告する。今回の講演は2件でいずれも福岡県工業技術センター所属の2人の先生によるものであった。

演題1. 「表面処理や腐食のあれこれ(2)」

金属部門・工学博士 土山 明美先生

本講演では腐食の事例を取り上げ、原因究明を行うために検討した事項について述べられた。

1) SUS304製水受けタンクの連結管の腐食

ミネラルウォーター供給装置により供給した水中に異物が発生したため、鉄さびかどうか連結管の腐食状況について調査した。

原因は不適切な酸洗、不適切な熱履歴により、腐食に対する感受性が鋭敏化したと考えられる。酸化スケール下の材料のクロム濃度低下による孔蝕電位の低下が主要因であった。対策としては酸洗液は硝酸液による洗浄がよい。また表面処理での研磨効果としては化学研磨が最もよい。

化学研磨>ベルト研磨>機械研磨

2) SUS630ボルトの腐食原因の調査

これは海水とその乾湿の繰り返しが原因の腐食である。またMgCl₂液の方がNaClよりも腐食を早く進めるので問題である。詳細は省略する。

演題2. 「溶接・接合に関する技術開発事例」

金属部門・工学博士 中村憲和先生

1) 「マグネシウム合金のスタッド溶接」

パソコン等のケースに部品固定用ボルトを接合することを想定し、マグネシウム合金基材上にマグネシウム合金ボルト及びアルミニウム合金ボルトを接合するために、短時間での接合が可能なスタッド溶接を適用した。

そして、その接合部の顕微鏡組織観察、EPMA分析、X線回折分析及び引張試験を行って接合性を評価した。

2) 「鉄道レールと通信ケーブル端子の接合はんだ材の開発」

はんだ材の組成に有害な物質であるCd、Pbを含有せず、接合時のレール素材への熱影響を極力低減させるため、融点(液相線温度)が300℃以下となるように、状態図計算を用いてはんだ材の組成を計算した。三元合金として、Sn-Cu-Zn系、Sn-Ag-Zn系、Sn-Ag-Cu系で設計し、更に実験で新規はんだ材を開発した。ラポテストとして、接合試験、接合部の観察、振動試験を行って接合部の評価をした。さらにフィールドテストで確認した。成果として、Sn-Ag-Zn:95.4-3.7-0.9が最も良好であった。

講演終了後は活発な質疑応答や意見交換がおこなわれ有意義な研修会となった。

地域だより

大分

大分地区CPD活動報告

地区CPD事務局

瀬口宏由紀
(建設)



大分県技術士会では、平成19年度に大分県測量設計業協会との共催によりCPD研修会を開催してから3年目を迎えており、今年の4月25日に行なわれた第7回CPD研修会には、193名の受講者があり盛会のうち無事終了することが出来ました。

このように研修会が開催出来ておりますのは、大分県技術士会会員の方はもとより、九州支部CPD審査委員長の完戸先生をはじめ、大分県測量設計業協会の皆様など、多くの方々の御支援の賜物であり、この場をお借りしまして、心より御礼申し上げます。

さてこの度、大分地区においてCPD研修に関する新しい取り組みがありましたので御報告致します。

今年の5月15日に国土交通省大分河川国道事務所、大分県土木建築部、大分県技術士会、大分県測量設

計業協会、大分県建設業協会の関係者の御出席のもと、大分河川国道事務所 谷村所長の御進行により、地域の技術者が効率良く学習できる環境を整えることを目的とした連絡会が開催されました。

連絡会では、各機関の講習等の実施状況について説明がされた後、意見交換が行われましたが、各機関の運営方法等が異なること、会場の制約があること等から、現時点では参加機関全てが連携した講習会の開催には、問題点が多いことが分かりました。

今後は、連絡会を通じて各機関が単独で行っている講習会等を他団体へも周知し、相互参加が可能となる環境作りを目指して、各機関が連携して調整していくことになりました。

大分県技術士会が主催している講習会は、職種、資格を問わず自由に参加可能であり、会場も300名程度収容可能なため、あと100名程度の受講が可能な状況にあります。

今後は現在の受講料を下げるなどして、より受講しやすい配慮を行って、会員の方はもとより地域における技術者の技術向上に貢献していきたいと思っております。

宮崎

平成21年度第1回 ローカルCPD

広報委員 藤原 秀志
(建設、総合技術監理)



「NPO法人みやざき技術士の会」では、APECこと鳥居直也氏を講師に招いて、平成21年度第1回ローカルCPDセミナーを去る5月16日に宮崎大学で開催しました。以下にその講演概要と本セミナー開催における反省点等について述べます。

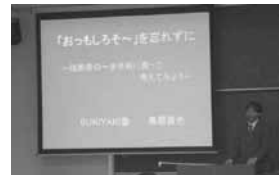
1. 鳥居氏の講演概要

「おもしろそー」を忘れずに～技術者の一歩手前に戻って考えてみよう～と題しまして次のような趣旨でご講演いただきました。

技術者は様々な知識や見識を身に付け、日常の業務を遂行しています。しかし時として「技術者」であるが故の視野の狭さに陥るケースが見られます。技術者として業務に取り組む前に、一人の社会人として自らが社会や住民と実際に関わってみて、自分の立つ位置を考えてみる必要があります。

また、内容は概ね以下のような項目で、自らのボランティア活動等の体験を基にした新鮮で大変興味深いものでした。

- ・新しい価値観
- ・社会が望む技術士とは
- ・2つの感動(感性、理性)
- ・形式知と暗黙知
- ・幸せになりたい



2. セミナー開催における反省点

本セミナーは(株)建設コンサルタント協会及び(株)農業農村工学会のCPD認定を受けましたし、また、講師は超有名人でありました。にもかかわらず、参加者が予想の半分程度(50名程度)にとどまりました。特に、CPDが義務化されたRCCM資格取得者の参加が非常に少なかったことが反省点であります。

この原因として、当日が休日(土曜日)の午後であったことや、場所がやや遠方であったこと、などが考えられましたが、後日の調査で建設関連協会等への周知の不徹底が主因であったことが明らかになりました。本ローカルCPDは、県内技術者が容易にCPD単位を取得できることを主目的として実施しているものです。今後の開催にあたっては、その周知徹底に万全を期したいと考えております。

熊本

熊本県「新技術・新工法活用システム」へ提案した「地すべり地帯におけるドレーンパイプの機能回復工法」の取組について

地区代表幹事 兼子 健男
(建設)



熊本県技術士会では会員の中から、NPO熊本技術士の会を組織しており、技術士受験講座、官民からの委託事業等の各種の活動を行っています。これらの中で現地対応技術として「地すべり地帯におけるドレーンパイプの機能回復工法」を熊本県土木部が実施している「新技術・新工法」に申請し、審査を受けた後、関係者の理解を深めるための試験を行っています。

技術の内容は地すべり地帯に施工される横ボーリング等の清掃技術です。

技術の基本は、私が熊本県に在職中に開発した水

田の暗渠排水管の目詰まり除去技術です。

通常、パイプラインの維持管理は大型のポンプを利用して行われますが、私の開発した方法は小型ポンプを利用し、ホースの推進力はグラスファイバー線入りホースを利用します。グラスファイバー線の挿入で棒状になったホースを後方からの押し込みます。それゆえ、利用するポンプは小型ポンプでよく、運搬が容易です。

パイプの清掃状況を把握するため、パイプ内をモニタリングする技術も開発しており、清掃作業の前後にモニタリングを行い、その効果を確認することを前提にしております。

また、地すべり地帯は資材の運搬が困難な地形が多く、この状況に適合した諸資材の開発も行っています。たとえば、洗浄水を入れる組み立て式タンクや運搬が容易なホース巻取格納機などです。これらの試験した結果は、昨年度から日本地すべり学会で報告を行っています。今後、さらに現地での実施した結果を関係者に報告し、本格的な対策に利用されることを望んでいます。

鹿児島

鹿児島県における技術士の活動について

地区代表幹事 後藤祐一郎
(農業、総合技術監理)



鹿児島県技術士会は既に報告した通り、鹿児島工業高等専門学校と「連携協力に関する協定」を締結しています。今回は現在行っている活動内容について概要を紹介します。

連携協力項目は5項目で、

- 1 技術者教育と技術士試験に関すること
- 2 社会人技術者の能力開発に関すること
- 3 技術移転事業及び研究開発・事業化に関すること
- 4 産学官交流促進に関すること
- 5 その他双方が必要と認める事項

となっています。

平成20年度は1の技術者教育と技術士試験に関するに基づき、以下の講義に講師を派遣しました。

専攻科1年生の「環境創造工学特別講義」には、

9名の講師を派遣し、省エネ・省資源、環境対策、廃棄物処理、環境保護、エネルギー問題等、「環境に関連した技術分野についての、最近の動向やタイムリーなトピックス」について講義を行いました。

専攻科2年生の「技術者倫理講義」には3名の講師を派遣し、「実社会における技術者としての倫理」について講義を行っています。

産学協同教育は、「技術士会と連携した新たな実践的技術者教育」が、文部科学省の平成20年度大学改革推進補助事業「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」として採択されたもので、準学士課程において鹿児島工業高等専門学校と鹿児島県技術士会所属の技術士との連携に基づく協同教育を実践し、「創造性豊かな実践的開発型技術者の育成を促進すること」を目的とするもので、都合14名の講師を派遣し講義を行いました。

また、2の社会人技術者の能力開発に関するに基づき、鹿児島県技術士会の2回の講演会の講師に、いずれも鹿児島工業高等専門学校に派遣をお願いし開催しました。

平成21年度も引き続き、「連携協力に関する協定」に基づく活動を行うこととしています。

I

官庁技術者の技術士受験、 10年間の奮闘記

清水 正明

(建設、上下水道、総合技術監理・長崎)



1. はじめに

私が技術士受験を決意したのは、10年ほど前の43歳の頃である。それまで、「技術士」は、建設コンサルタントの方の名刺で見かけていたが、すごく難しい論文試験と聞いていたので、「とても、とても官庁に勤めて取れる資格ではない」「高嶺の花の資格」と考えていた。しかし、その前年度、職場の後輩が30歳代の初受験で合格。「清水さんも、やってみなね」となってしまった。「本当に自分が技術士になれるのか」と不安いっぱいスタートであった。

2. 初受験から合格までの長い道のり

○平成12年度 水道部門〔下水道〕 不合格

最初は、何も分からず、後輩に薦められて「どなたでも技術士になれる」の受験講座に申し込んだ。この講座は、ご存知の方も多いかと思われるが、もう故人になられた久留米の久保田さんが主宰されて開講されていた。技術士会の方の中には、当時、講師として私自身がお世話になった方も見受けれる。

「その節は、大変お世話になりました」…。官庁技術者には講座受講に対する補助もなく、16万円は大変な出費となった。家内に「それば取れば、給料の上がるとね』『うんにゃ、あがらん』『なんで、16万も出すと。やめれば』と言われたが、申し込んだ以上は、一歩も引かぬ決意で望んだ。久保田さんは、きびしい方で受験日の1ヶ月ほどの前の日曜日、つたない用事で1日中、外出していたら家内に電話があったらしく、「あなたのご主人は、今、何をしていますのですか。どうゆう時期か分かっているのですかね。すぐ連絡とって、私に電話させなさい」その後の電話では、しかられる、しかられる…。でも、今になって久保田さんみたいな「きびしさ」がないと絶対に受からない試験と感じている。合掌----

結果は不合格。「まだまだ、甘い」「楽しんで受かる

う」では、とても克服できる試験ではないと感じた。
○平成17年度 建設部門〔都市及び地方計画〕 合格
2年目となる平成13年度は、申し込みするが「敵前逃亡」したり、制度が変わった平成15年度は、一次試験の受験があつたりで、平成16年度から、再び2次試験に挑戦。この年は落ちたものの、経験論文がA評価だったので、すごく自信になった。翌年、4回目の受験でやっと「突破」することが出来た。長い々6年間であった。「40歳代で取るぞ」は実現せず、2月末に合格通知が来た時には50歳と2日が経過していた。

○平成18年度 総合技術監理部門 合格

○平成20年度 上下水道部門〔下水道〕 合格

制度が変わった平成19年度から再度、下水道に挑戦した。新制度は、これまでと、大きく変わり時間的に余裕がある中でどんな論文が書けるかも受験の大きな動機となった。

1年目は挫折を味わうことになったが、絶対に下水道技術士になるんだという強い意志を持続出来たのが平成20年度の勝因と思っている。

3. 官庁の技術士として

「何で技術士ば取っとね」とよく言われる。確かに職務で資格は必要でもないし、給与面での優遇もない。しかし、建設コンサルタントの方との協議、打ち合わせが多い職務だから、お互い技術士とし認識して仕事を行うと、自分に自信を持てるし、コンサルの方も信頼してくれる。また、総合評価落札式の導入等等発注者としても高い技術力が求められる現状を考えると、自分の資格を有効に生かしていきたいと考えている。

4. おわりに

「高嶺の花」を3つも手に入れたことは、自分自身でも感心している。「何が専門ですか」と言われそうな気もするが、建設部門「都市及び地方計画」では、専門とする事項〔都市施設〕としているため、「下水道の整備普及は都市基盤整備の基本事項。下水道を語らずして都市計画を語るな!!」が自論となっている。技術士となって、大学の先生や企業の方との付き合いが多くなり技術の研鑽の場も増えた。今後は、官庁での技術士を増やすため、後輩諸氏の技術力の向上に寄与していきたいと考えている。

II

技術士必携の書 「理科年表」

竹内 良治

(建設、上下水道、衛生工学、
総合技術監理・北九州)



1. はじめに

理科年表をご存じでない方は皆無であろう。しかし、毎年、最新の年版を傍において愛読する者も少ないのではないかと。私は4年に一度くらい購読する程度である。そこで、理科年表を紹介しよう。

本書は大正14年、創刊以来、大戦時の3年を除き、平成21年版、第82冊目になる。本書は文部科学省国立天文台編 丸善株式会社発行となっている。発行時期は年末で、毎年10月に発表されるノーベル受賞者がその年版に掲載されている。

1980年頃まで、内容は暦、天文、気象、物理／化学、地学の各部で構成されていた。ところが1984年に、生物部が加わった。数年後、技術士試験に生物部門が加わる。

その次の変革は、2005年版で環境部門が加わるとともに、環境編の別冊が発行される。実は、この環境編別冊を本稿の書くために購読した。本書は技術士試験講習会の講師にとって必携の書と思う。

2. 愛読部

1) 暦部、天文部

暦は生物にとって最も重要な情報で、十干十二支から西行の命日「その如月の望月の日」まで載っている。

天文部は本年がガリレオ天体観測400周年と7月22日、上海・トカラ列島での今世紀最長皆既日食などを詳しく解説している。お孫さんに上海で今世紀最大の天体ショーを！

2) 気象部

私の仕事が上下水道に係わってきただけに、気象は最大の関心事である。特に、最近の地球環境問題が本物なのかどうかを、降水量記録などが21世紀になってから多くなったかをチェックしている。2002年4月に下水道に異動してから、年間雨量は多い方と少ない方が列挙し、1500～2000mm平均的雨量の年がない。

博多駅が水没した日、高知市で女高生が下水マンホールに落ちた日、佐賀県が作況指数50となった台風塩害、八代市で高潮犠牲者出た台のような記事は年表に掲載されておりません。そのため、年表に手書で加記しています。

3) 地学部

この部は一番手垢にまみれている。無人島でM9の地震があっても震災皆無である。逆に日干し煉瓦だとM6でも大震災となる。地震は震災のチャンピオンである。家屋倒壊、火災、土砂災害、堰止湖倒壊による水害・土石流、津波など災害のデパートである。また、最近の新聞書評による

4) 各部の発明・発見史とノーベル賞史

各部の最後にその部の理科史7部が掲載されている。そこで共通している事象がある。まず、最初の4, 5件がギリシャ、ローマ期でその次がルネッサンスの西欧の事象になっている。このことは、西欧中心史マル写しで、その間、世界を担ったアラブ、アジアの成果が欠落している。これを世界標準と思っている常識が西欧の思い上り（イラク、アフガンの二の舞）を感じる。

3. 部間の横糸（読者の発見）

部門、部門はそれぞれ独立しているが、部門間の横糸を発見した時は無上の感動を覚える。その一つ目が、08年ノーベル物理学賞の小林、益川両氏の場合、物理学上発見の歴史を見ると、1973年に論文発表している。それから35年余り、南部、下村両先生も合わせてみるとノーベル賞は長寿でなければならない。

続いて小柴先生の受賞を探ると、1983年に岐阜県神岡鉱山廃坑に伴って、カミオカンデを建設する。その4年後、ガリレオ以来最大の超新星爆発（天39）でニュートリノの実証につながる。この大規模爆発がなければ、検出器の感度上、先生存命中に目的を達成できなかった可能性もある。そこで、ノーベル賞は運が最大の要件かも知れないとも云える。

ノーベル賞が貰えなかった悲話もある。ビタミン発見者は、1名を除き、全員貰っている。その例外1名が1910年、オリザニン（ビタミンB）を発見した鈴木梅太郎である。ある軍医の反論（米糠が脚氣に効くなら馬の小便も効く）に会ったためと云われている。戦前に日本人がノーベル賞を受賞していたら歴史はもっと変わったかもしれない。

理科年表は本当に飽きない技術書である。

Ⅲ

一 鹿児島高専との連携協力から 私が出たもの！ 一

山ノ口正和
(建設・鹿児島)

「先生」と初めて呼ばれた時、非常にからだ中こそばゆく、照れくさい感じがした。先生と呼ばれるのは、学校の先生、医者、議員など、ごく限られた人が言われる称号だと、私は思っていた。

私は現在、鹿児島県技術士会（以下、本会）と鹿児島工業高等専門学校（以下、高専）との連携協力の推進委員としての役割を担っている。それで、恥ずかしながら連携協力の一環として講義の講師として教壇に立つこともあり、高専の先生や学生に「先生」と言われる所以となっている。

本会と高専とは、以前から本会の会員が、高専の学生教育を対象とした講師の派遣を通して、技術支援を行ってきた経緯を踏まえ、「円滑かつ密接な連携のもとに、科学技術に係わる教育研究分野において相互に協力し、教育研究の充実と人材の育成に寄与する」ことを目的として、平成19年6月27日に日本初となる科学技術に関する連携協力を締結した。このような連携協力の事例としては、カナダにあると聞いている。

ここでは、連携協力の一環である、「環境創造工学特別講義」を通して、私が実際に体験し、考えさせられたことや学生から学んだことについてふれてみたいと思う。

私の専門は土木（橋梁）関係である。しかし、講義の対象学生は、土木専攻だけでなく電気電子、機械、電子制御、情報の5学科から成立している専攻科の学生である。本講義は各科学技術分野における環境をテーマとした講義で、「橋」の環境配慮設計と題して行った。私自身、橋梁（構造）と環境との結びつきが自問自答する中での講義において、設計の段階で場所に応じた最適な比較検討を行いコスト削減を行うことが、環境に配慮した設計となる主旨

を伝えた。しかし、私の所属する建設コンサルタントを知らない学生がほとんどであったことには驚かされた。土木建設関連業（以下、土木）は、日本の高度成長期より人材を確保し、さらには、労働者の受け皿として、広く社会に貢献してきたものと私自身考えるものの、今の時勢から、やはり土木は人気がないのか？と思った。さらには、講義を通して「土木がまた、何かやらかしたのか」との土木に対して先入観から悪いイメージを持っている学生や土木に全く関心なかった学生もいたのは残念ながら事実であった。だが、講義を通して、私は、少しは土木にも興味を持ってはもらえたものと感じた。本講義は、学生から講師宛にレポート提出を行い、講師が採点評価を行い、その結果を持って高専へ報告する仕組みになっている。この評価を行うことが、基準をどこに置くか等、非常に難しいものであった。

一方、考え方を換えれば、講師も学生から直接評価を受けることになる。中途半端な状態での講師は学生に見破られる。さらに、学生も講義内容について多様な視点から意見をぶつけてくる。中々、興味深く・おもしろくかつ刺激される。すなわち、私は学生から豊かな発想によるパワーの源を貰っているとうれしく思った。

振り返ると、私が今の学生と同じ時期は、新人類と呼ばれ、ここまで真剣に、講義を受けていた私は恥ずかしながら、なかったと思う。

今や科学技術の発展においては、産学官の連携は必要不可欠なものとなっている。鹿児島高専は時代の先取りとしてJABEEの認定校となっており、そのため本会と連携した実践的技術者教育への期待は大きい。その期待に応えるため、さらに、土木の若い人材、いや「人財」を育むためにも「先生」の名に恥じないように貢献していきたいと思う。

原稿募集

「声の広場」「熟年技術士の声」「若手技術士の声」
「女性技術士の声」「私のチャレンジ」コーナーに
会員の皆様の声をお寄せください。

詳細については、九州支部事務局へお問合せ下さい。

技術者生活をふり返って



田尻 雅則
(建設・熊本)

1. はじめに

平成20年3月、学卒来勤務してきた会社から転籍し、自由な時間を持てるようになった新境地で、異分野にも一それには自身の好奇心と感性が問われる事にもなるが一誘われるまま入り込んでいる。

ここでは、最近の経験をもとに、技術者として感じたことを記す。

2. 技術士としての活動

私が技術士を取得したのは、実務経験20年目であり、ずいぶん立後れた技術士活動の開始である。それまでも地盤工学会をはじめとする関係各学会や研究会に参加して、多くの知己を得、研鑽を図ってきた。

技術士取得後は、対外的活動の機会が増え、責任の重さに加え、吸収すべき情報が多岐にわたることに、最近では些か能力の限界を感じざるを得ない。

3. 初めての海外赴任

最近のことであるが、平成20年12月から3ヶ月間の海外赴任生活を経験することが出来た。

3.1. 到着まで

昨年11月末、これまで培ってきたネットワークを通じて、アフリカへの赴任話が舞込んだ。50代後半、子育てが終り、自由な時間を持てるようになったところであり、後先を考えず二つ返事で渡航を決定した。

赴任先は、北アフリカ アルジェリアの高速道路建設現場である。渡航決定後、外務省の情報では「安全が保証されていない地域であり、渡航の延期を求めるエリアも含まれる」状況であることを知ったが、もう後の祭である。

残務整理を終え、東京で前任者と数時間の引継を行った足で成田に向かった。約26時間の長旅の後、降立ったアンナバの空港で迎えの車に乗込み、アフリカ生活のはじまりに緊張した。

3.2. オフィスにて

オフィスのスタッフは約100名。日本人28名、フィリピン人・アルジェリア人が各々全体の1/3、ほか

に中国・タイ・ベトナム・ドイツ・フランス・ギリシャ人。まさに多国籍である。彼らが、契約に基づいて、自分の意見を第一に議論しながら業務を進める。片言の英語で何とかこなしたのは幸いである。

3.3. 業務は

対象地はチュニジアとの国境側120km区間。私は地盤チームのチームリーダーとして、土工や構造物基礎の地盤調査・試験の管理取り纏め、客先に提出する設計計算（これは時差を利用して日本で実施）、報告書のチェック（これらが全てフランス語）と工程管理、客先（元請のJV、アルジェの政府機関）との調整が仕事で、国内の業務に比べて相当にシンドイものであった。

3.4. 帰国して

帰国して約2ヶ月。追いまくられるようなアルジェリアでの業務をふり返って、国内での業務の有り様との違いを改めて感じる。

当地では、設計の全てがユーロコードを基にしている。これは、端的に言えば性能規定の基準であり、アプローチは技術者の判断に委ねられる。すなわち、技術者としての資質・能力が問われる。

ふり返って国内の状況を見ると、いわば完璧な工法規定であり、技術者の技量やアイデアの入り込む余地はきわめて限定される。

国情の違い、自然条件の違いを考えても、技術者にとって、どちらが楽しいかは自明である。

4. これから（まとめに代えて）

技術士は登録部門の専門家であるが、技術に部門の垣根はない。また、自然科学と人文科学も無縁ではない。凡そ技術者たるものは、人間社会を含めた“環境”の健全的發展のために、能力の全てを發揮して、努めねばならない。それを付託された技術士の活動を縛るのは、“技術者の良心”のみである。

これから活躍される方々には、慣習や慣例に縛られることなく、研鑽に努め、自身のアイデアをもって貢献して頂きたい。

理想の技術者を目指して



野尻 周男
(建設・宮崎)

私は、今年3月に合格したばかりの新米技術士です。したがって、技術士としての業績はほとんどありませんが、これから技術士試験に挑戦される方々に参考になればと思い、技術士試験にチャレンジした経緯と若手技術士としての今後の抱負を述べさせていただきます。

私は、17年前に故郷宮崎を離れ、大阪の総合建設コンサルタントで10年にわたって都市計画の設計技術者として、街づくり構想・計画・設計・地元説明・事業許認可・施工管理に携わりました。ご存じの方もおられるでしょうが、区画整理の詳細設計には、道路をはじめ、河川・上下水道・農業用施設・電気施設など幅広い知識を求められます。勉強に追われて日々を過ごすのに精一杯で、技術士に挑戦するなど全く頭にはありませんでした。

Uターン後は、父の経営する建設コンサルタント会社で、地域の利便性向上と安全・安心の実現に向けて、多少は身についたであろう知識と経験を地元で活かしたいという思いを持って、道路構造物や斜面災害復旧工事の計画・設計・施工管理などを行ってきました。しかし、これらの設計に地質と地盤についての知識や評価が欠かせないと気づかされ、そのどちらにも乏しかった私は、判断で行き詰まることが多々あり、自分の技術力の未熟さを思い知ることになります。悩む日々が続く中で、大学・自治体・コンサルタントで組織された地質と地盤に関する研究会の存在を知って、参加させていただくようになりました。研究会での講習や現地説明会は新鮮で何度も目からうろこが落ちる思いをするとともに、他社の先輩技術者が気さくに実務の課題や解決法を教えてくださいという、大阪在勤時には考えられないことに驚かずにいらませんでした。この研究会には、多数の技術士が参加されていることもあって、いずれ自分も技術士を取得して、教わるだけでなく専門分野の相談を受けて指導ができる技術者になりたいと思うようになりました。

その様な中で、2年前にコンサルタント会社とし

ては県内最年少で代表取締役役に就任して、技術者としてだけでなく、父の指導の下に経営者としての実務にも携わるようになりました。とはいえ、社員の殆どは年上なので、指示一つするにも苦労の連続です。加えて、発注担当者の中には、近年技術士を取得される方も多く、一定水準の技術力と敏速な対応が常に要求されています。すなわち、私自身の技術力や対応ひとつひとつが会社を代表するわけであり、発注者に「若い社長でこの会社は大丈夫なのか」と思いを抱かせることがあってはならない、という不安と緊張への闘いの日々が始まりました。技術士を取得したいという漠然とした思いは、顧客満足度の向上や会社を存続させて社員の生活を守るという、自分が果たすべき義務と責任の重さに気づいた時に、ぜひとも取得しなくてはならないという強い気持ちに変わり、現実として受験に取り組むことになりました。

技術士の受験にあたっては、研究会同様に社外の先輩技術士から呼び出されて、徹底的なマンツーマン教育がなされました。そのおかげで、技術士の何たるかを自分なりに理解することができましたが、指導は完全なボランティアだったので、「ライバル会社の人間のために、どうしてここまで親身に指導してくれるのだろう」という疑問もあわせ持つことになりました。この疑問は指導を受けるうちにやがて氷解しました。「次世代の技術者を育成するのに、会社は関係ない」という、信念を持って行動する方々でした。私も自分の技術に確固たる信念を持ち、信念に基づく行動力を持ちあわせた頼られる技術士になりたい。これが、恵まれた環境で技術士となった現在の私の宿願です。ところで、技術士を取得して、社員の私を見る目が変わり、社員教育もやりやすくなったことを実感しています。

これからも、自己研鑽はいうまでもなく、社内の技術力と技術者倫理の向上を図り、垣根と利害を意識しない技術者交流と技術者の育成を図ることにより、地域に貢献できる技術者であり経営者でありたいと思います。

これまでのチャレンジ、そしてこれから



佐田英一郎

(建設、総合技術監理・福岡)

私のこれまでの半生は、チャレンジや挑戦といった言葉とはおよそ縁遠いものであったのかもしれない。進学、就職など、自らの強い意思で臨んだというより周りに流され何となく済ましてしまったという感がある。特に就職に関してはのん気なものであった。

私が就職した時代は、昭和から平成になったばかりのまだバブル期であった。就職希望の学生に対する企業からの求人募集もすさまじく、一部の人気企業を除けば、自分の希望する会社にすんなり入れた時代である。当時、企業側が内定者をライバル会社に引き抜かれぬよう、ライバル会社の就職試験日に旅行に連れて行くなどの囲い込みする企業もあったと聞く。今の学生が聞いたら憤慨してしまいそうな話である。しかしそのような楽をした世代への付けであろうか、バブル期入社組みはその後、会社で役に立たない世代と言われたこともあったようだ。

このような甘い時代を若い頃に送り、学生時代には全く本を読まなかった私であるが、通勤する電車の中で時間をもてあますようになると次第に本を読むようになった。当時は、吉川英治氏や司馬遼太郎氏などの時代小説をよく読んだ。特に「坂の上の雲」は印象に残り、明治人のすさまじいエネルギーや努力に感じるものがあった。そしてそれに触発されたのか、30代になり私の人生最初のチャレンジと言ってもいい挑戦を行うことになった。

しかし挑戦といっても、恥ずかしながら英語検定4級の受験である。中学2年の時不合格となって以来、実に17年ぶりのリベンジであった。受験当日の会場で、ある程度は予想していたものの、私みたいなオジサンは一人もおらず、隣の席を見ると小学1年生ぐらいの男の子。思わず苦笑。その子の前の席は母親と思われる女性が一緒に受験されていた。試験が始まると、その男の子はスラスラ解いていく。ちゃんと勉強してきたのだろう感心だ。しかし、途中で前の席のお母さんのイスを、足を伸ばして蹴り始め、「ねえねえ、お母さん！名前はどうかくと？」と小声で聞き始めた。お母さんもお子さんに英語の

ほうは手抜きで教えていたが、テストの名前の記入法まではさすがに気が回らなかったのであろう。試験官も大目に見ていたようである。何かほほえましい光景であった。

話が脱線してしまいました。

その後、勤めていた会社の経営が怪しくなってくる。そうなる前大災害が起きる前の動物のように、人間も危険を察知するのか徐々に辞めていく人がでてきた。もともと技術屋が10人もいない会社であったから、さらに人数が減っていくと、お客さんに良い技術の提供ができなくなるのがつらかった。この先、給料もちゃんともらえるかどうか心配になってきた。私も悩み転職しようと思った。しかし、上司から残るよう懇願され引き止められた。そして、また悩んだ。

時代小説を読むと、その多くに共通するのは、己の利のままに主家を変えたり、寝返ったりする者は後世まで悪人として伝えられ、義を貫く者は例え天下が取れなくても、不本意な死を遂げようとも、その名は後世まで残され称えられる。当時、時代小説を読みふけ、人としての生き方を模索していた私は決断した。「この会社に残ろう。私に期待を掛け頼る人を見捨てるわけにはいかない。そして、戦で最も困難とされる殿(しんがり)をこの会社で務めよう。」と思った。これが私の今までの人生で、最大のチャレンジを決意したものであったのかもしれない。

しかし、その決意もむなしく、会社はまもなく倒産となった。その後、今の会社に勤めて10年ほどになる。

現在は100年に一度の大不況と言われている。私が身を置く建設業界も非常に厳しい状況であり、今後その厳しさはさらに増すであろう。しかし、その中でなんとか生き残っていかなければならない。前の会社の時とは違い、今は私より若い人もたくさんいる。その後輩たちやその家族を路頭に迷わしてはならない。

私の人生最大のチャレンジは、これからが本番となるのかもしれない。

修習技術者の声

自分にとっての技術士



福田 慶剛
(上下水道・佐賀)

土木業界といえば、公共事業が主であり、1990年代をピークに毎年徐々に削減されていく傾向にあります。

私は、熊本の測量専門学校を卒業後、福岡県的设计会社へ入社し、その後、同県的设计コンサルタントを経て現在の会社に至ります。業務の専門としては、最初の会社が大手コンサルタントの協力会社であった為、下水道が専門となりました。現在は、下水道以外では構造物、砂防関連、点検及び環境調査等にも従事しております。

技術士の資格は、日本の5大資格として知られており、正直私には無理な資格と考え、「RCCMが取れたらいいな」程度しか考えておりませんでした。理由は、土木設計に必要なのは、携わる業務の知識と経験があれば出来ると思っていたからです。まさに経験に勝るもの無しという考えです。

しかし、時代の変化と共に、昔は上記の様な事が通じていた時代もありましたが、現在では会社や発注者からも求められるようになりました。又、私に

は某市役所に勤める友人がいて、彼は既に技術士補を取得し、よく彼は私に早く技術士補をとるよう言っていました。

このようなこともあり、私は何となく受験しました。それなりの知識もあるし、少し勉強したら合格するだろうと慢心がありました。結果は、当然の如く不合格です。この不合格こそが自分自身を変えるきっかけでした。今までの私は、この仕事に本気で取り組んでいるつもりが取り組んでいなかったことに気付きました。翌年は、ただ合格することを目標とせず、試験を通じて仕事に向き合うことに集中した結果、技術士一次試験と下水道関連の試験に合格することができました。

今後の目標として、二次試験の合格と共に、他の資格も取得し業務の幅を広げ、より広い視点で仕事に取り組めればと考えています。また、資格取得だけを目標とせず、取得時を技術者としての新たなスタートラインとして捉え、自分よりも若く経験が無い人に継承できる技術者になっていきたいです。

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部)入会

(平成21年2月)

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員 岡田 頼明	上下水道	(株)松尾建設設計公共設計部課長
長崎	準会員 永井 清人	機械	コバレントマテリアル長崎(株)
佐賀	準会員 小堺 浩樹	電気電子	(株)正興電機製作所社会システムカンパニーシステム設計技術部
福岡	準会員 古賀 正範	建設	(有)総合緑化コガキュー
熊本	準会員 田中 徹哉	建設	熊本県鹿本地域振興局土木部
佐賀	準会員 成富 初夫	建設	小城市役所教育委員会
福岡	準会員 亀円 敦美	建設	九州工業大学大学院
長崎	準会員 岩崎 尚道	上下水道	長崎市役所上下水道局事業部

(平成21年3月)

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員 高島 修	機械	(株)アステック入江本社常務取締役技術開発企画部
福岡	正会員 西尾 行生	機械	パナソニックコミュニケーション(株)CSグループ
福岡	正会員 森川 敏郎	機械	西部電機(株)精密機械事業部
宮崎	正会員 岩切 康二	建設	岩切環境技術(株)技術部
大分	正会員 加茂 豊博	建設	(株)ソイルテック

福岡	正会員 川窪 隆典	建設	(株)ジオ技術部
福岡	正会員 倉吉 一盛	建設	(株)建設技術研究所九州支社河川部
長崎	準会員 本岡 勝義	機械	(有)アローエンジニアリング
長崎	準会員 田浦 弘隆	建設	(有)開建エンジニアリング
長崎	準会員 高橋 善郎	建設	(株)谷川建設
佐賀	準会員 水田 実	建設	麻生工科大学専門学校教務部
福岡	準会員 緒方 貴宏	生物工学	(株)アステック技術開発部
福岡	準会員 福島 敏郎	環境	クリタ分析センター(株)地方プロジェクト

(平成21年4月)

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
長崎	正会員 永井 雅明	機械	三菱重工業(株)原動機事業本部ボイラ統括技術部
熊本	正会員 吉海 寛人	機械	(株)三井三池製作所技術開発部
鹿児島	正会員 坂部 毅	電気電子	日本電気(株)公共ネットワークソリューション(有)第三ソリューション部
福岡	正会員 朝隈 竜也	建設	(株)オリエンタルコンサルタンツ国土基盤事業部九州支店
宮崎	正会員 井深 慎也	建設	(株)大林組九電小丸川発電所JV工事事務所

福岡	正会員	岩井 久	建設：朝日鐵高炉セメント(株)商品・品質管理部	福岡	正会員	我原 弘昭	水産：(株)不動テトラブロック環境事業本部九州技術部 環境総合技術監理
福岡	正会員	上村 幸二	建設：西日本地研(株)技術部	大分	正会員	嶋村 初男	水産：(株)アスト水産土木部
熊本	正会員	加藤 栄一	建設：NTTインフラネット(株)九州支店企画部	福岡	正会員	内田 唯史	応用理学：(株)九州環境管理協会環境部 環境総合技術監理
福岡	正会員	姜 誠	建設：パシフィックコンサルタンツ(株)九州支社都市・交通部	福岡	正会員	久保田史朗	応用理学：(株)アイ・エヌ・エー九州支店
福岡	正会員	北澤 浩二	建設：(株)ダイヤコンサルタント	宮崎	正会員	竹下 義隆	生物工学：タカノフーズ(株)
福岡	正会員	古字 寛芳	建設：復建調査設計(株)福岡支社	福岡	正会員	小川 真一	環境：シー・アール・シー食品環境総合技術監理 衛生研究所技術部
福岡	正会員	小嶺 啓蔵	建設：オリエンタル建設(株)	佐賀	準会員	柿本 悦二	金属：旭化成ケミカルズ(株)薬事業部
福岡	正会員	坂田 省三	建設：(株)松尾設計環境・エネルギー部	熊本	準会員	溝口 忠夫	金属：(株)くまもとテクノ産業財団産学連携推進センター
福岡	正会員	篠原 敏生	建設：エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株)九州支店設備部	福岡	準会員	吉本辰也(士)	金属：山九(株)千葉支店3PM事業統括部
大分	正会員	柴尾 尊一	建設：大分県庁土木建設部	福岡	準会員	我原弘昭(士)	建設：(株)不動テトラブロック環境事業本部九州技術部
熊本	正会員	高山祐二郎	建設：(株)有明測量開発社設計部	大分	準会員	島村初男(士)	建設：(株)アスト水産土木部
熊本	正会員	徳山 雄一	建設：(株)大進コンサルタント技術部	鹿児島	準会員	平原 俊明	建設：国土交通省九州地方整備局鹿児島湾岸・空港整備事務所
福岡	正会員	沼川 滋彦	建設：(株)バスコ九州事業部技術部 総合技術監理	宮崎	準会員	六丸 治親	経営工学：パナソニックコミュニケーションズ(株)経営品質推進本部
宮崎	正会員	野尻 周男	建設：(株)晃和コンサルタント	福岡	準会員	加藤 祐子	生物工学：東和大学環境デザイン工学科
福岡	正会員	藤崎 能正	建設：サンコーコンサルタント(株)九州支社技術部				
福岡	正会員	宮脇 悟	建設：(株)熊谷組九州支店営業部				
鹿児島	正会員	中村 成孝	上下水道：理水化学(株)南九州支店				
宮崎	正会員	下津 義博	衛生工学：下津労働衛生コンサルタント 環境技術士事務所 総合技術監理				
福岡	正会員	西田 剛	衛生工学：(株)日本環境衛生センター				

賛 助 会 員

……………[福岡]……………	(株)富士ピーエス九州支店	ダイエーコンサルタント(株)
(株)アイ・エヌ・エー九州支店	富洋設計(株)九州支社	大洋測量設計(株)
いであ(株)九州支店	平和測量設計(株)	東洋測量設計(株)
(株)エスケイエンジニアリング	(株)松本組	西日本コンサルタント(株)
(株)カミナガ	(株)唯設計事務所	(株)日建コンサルタント
(株)九州地質コンサルタント	……………[北九州]……………	日進コンサルタント(株)
九州環境技術研究所	環境テクノス(株)	松本技術コンサルタント(株)
(株)建設環境研究所福岡支店	(株)九州設計事務所	……………[宮崎]……………
(株)構造技術センター福岡支社	(株)酒見設計	(株)アップス
(株)サンコンサル	(株)太平設計	九州工営(株)
新地研工業(株)	(株)都市開発コンサルタント	(株)弓場水コンサルタント
第一設計(株)	(株)松尾設計	(株)ケイディエム
第一復建(株)	……………[佐賀]……………	(株)国土開発コンサルタント
(株)大建	(株)九州構造設計	正栄技術コンサルタント(株)
大成ジオテック(株)	新栄地研(株)	(株)白浜測量設計
(株)ダイヤコンサルタント九州支店	西日本総合コンサルタント(株)	(株)親協
(株)タイヨー設計	日本建設技術(株)	南興測量設計(株)
大和コンサル(株)	……………[長崎]……………	(株)西田技術開発コンサルタント
(株)高崎総合コンサルタント	扇精光(株)	(株)東九州コンサルタント
中央開発(株)九州支社	(株)実光測量設計	(有)福島測量設計調査事務所
(株)東京建設コンサルタント九州支店	(株)新栄設計事務所	南日本総合コンサルタント(株)
東邦地下工機(株)	大栄開発(株)	(株)都城技建コンサルタント
西鉄シーイーコンサルタント(株)	大洋技研(株)	(株)宮崎産業開発
西日本技術開発(株)	西日本菱重興産(株)	(株)ロードリバーコンサルタント
西日本コントラクト(株)	……………[熊本]……………	……………[鹿児島]……………
日鉄鉱山コンサルタント(株)九州支店	アジアプランニング(株)	朝日開発コンサルタンツ(株)
日本工営(株)福岡支店	(株)九州開発エンジニアリング	コアツ工業(株)
日本総合コンサルタント(株)九州支店	……………[大分]……………	中央テクノ(株)
日本地研(株)	九建設計(株)	(株)久永コンサルタント
(株)橋梁コンサルタント福岡支社	九州特殊土木(株)	
(株)福山コンサルタント	協同エンジニアリング(株)	

九州支部平成21年度 第2回CPDのご案内

1. 日時 平成21年7月25日(土) 10:00~17:00
2. 場所 福岡商工会議所ビル 302号
(〒812-8505 福岡市博多区博多駅前2-9-28
TEL: 092-441-1110)
3. 講師及び内容 (講演順不同、技術士にはCPD認定6単位 当日CPD参加票授与)
 - 1) 原田光久氏
(日本磁力選鉱㈱代表取締役社長)
【演題: 磁力選鉱システムの開発・創業から環境・資源リサイクルを包括した現在まで(仮題)】
A-2
 - 2) 橋爪 誠氏
(九州大学大学院医学研究院教授)
【演題: 画像誘導下のロボット手術】 A-4

- 3) 廣田正典氏
(九州経済産業局資源エネルギー環境部長)
【演題: 低炭素、太陽光等新エネルギー関連施策等について(仮題)】 A-6
- 4) 小峰和彦氏
(福岡市道路下水道局水環境整備部博多駅地区浸水対策室主査)
【演題: 博多駅地区浸水対策事業他(福岡市の下水道事業の紹介)】 A-3
4. 参加費(資料代): 1人3,000円(当日徴収。なお、昼食・飲料等は各自負担をお願いします。)
5. 参加申込先: (社)日本技術士会 九州支部
TEL: 092-432-4441 FAX: 092-432-4443
参加ご希望の方は、下記のいずれかの方法にてお申し込み下さい。①を推奨します。
 - ①支部ホームページ「CPD案内」
<http://www.pekyushu.com>
 - ②所要事項をご記入の上、九州支部宛FAXにて送信
申込期限 7月23日

会誌“技術士”最近の主要目次

[PE] 技術士4・2009

- ・ ㈱日本技術士会への期待/岡松壮三郎
- ・ 高齢化社会の到来が及ぼす技術士活動と技術者倫理への影響/平野富夫
- ・ 生体認証システムの利用拡大に対する検討/小林守
- ・ 子供用衣類の設計に関する安全対策について/友金弘子
- ・ クロマグロ養殖の現状と展望/有元 操
- ・ 水村部会の研究発表会を長崎大学と連携して開催/久原俊之
- ・ 技術士の活用、処遇に関するアンケート調査結果について(その2)/古西義正

[PE] 技術士5・2009

- ・ 地球温暖化と農業技術者の役割/大森昭彦
- ・ 第二世代の技術者倫理教育/田中秀和
- ・ 病院における医療情報システム/木村良彦
- ・ 建設工事の安全管理と工学教育/北條哲男
- ・ 非鉄金属資源の再開発と環境改善への取り組み/大木久光
- ・ がんに対する免疫療法/坂口 克

[PE] 技術士6・2009

- ・ 技術力と経営力に優れた建設産業/谷口博昭
- ・ プロフェッショナルエンジニアの倫理/打田憲生
- ・ 日本発のICカードについて/吉川博晴
- ・ 核燃料再処理に関する安全とリスクコミュニケーション/今本信雄
- ・ 中米における生物多様性保全の取り組み/森島啓司
- ・ 人間と安全、ヒューマンエラーとリスクアセスメント/森山 哲

編集後記

先月の支部総会・役員会において、甲斐新支部長のもと新体制が発足しました。

巻頭言にもあるように、新体制では意欲的に支部改革を推し進めようとしています。この中で本誌についても「会員に愛される刊行物として内容を良くしていく事」があげられています。

今年度は、支部ホームページとの連携・役割分担を明確にし、「技術士だより」では様々な分野、年代の技術士の方々の活動、理想とする技術士像、技術士会への提案等々皆様の心に語りかける紙面づくりに努めていきたいと考えています。そのために、できるだけ多くの方々に紙面に登場していただけるよう創意工夫をしていきたいと思っています。

様々な人財ネットワークが可能な技術士会に自ら関わりを持つことが「入会のメリット」を勝ち得る第一歩だと信じています。

皆様とともに「会員に愛される刊行物」を創っていきたく思いますので、ご協力をお願いいたします。(棚町)

発行: ㈱日本技術士会九州支部

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1

(シック博多駅前ビル203)

九州支部: ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail: pekyushu@nifty.com

九州支部ホームページURL:

<http://homepage2.nifty.com/pekyushu/>

センター: ☎/FAX(092)432-4443

印刷: ㈱川島弘文社